

令和6年度 普天間第二小学校の取り組み

1 研究主題

「積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」

～主体的・対話的な深い学び合いのある授業づくりを通して～

2 研究主題設定の理由

本市の英語教育特例校授業計画の実施以来、A L TとのT T形式の取り組みを実施している。歌やリズム遊び、読み聞かせ、ゲーム、スキットなどを取り入れて身近な英語を聞いたり話したり表現したりという活動の中で、児童は楽しみながら英語に触れ、慣れ、親しんでいる。

また、国際理解教育とつなげた学習に取り組むことで、異文化に興味・関心が高まってきている。児童からは、「英語は楽しい」「もっと英語を学びたい」「もっと話せるようになりたい」という声が聞かれた。

そこで、児童のモチベーションを高めるため、昨年度から引き続き今年度も、英語科においては、テーマを「積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成～主体的・対話的な深い学びのある授業づくりを通して～」とした。

英語を使って積極的にコミュニケーションを取る活動を進めるため、英語のリズムとTPR（Total Physical Response ジェスチャー・視線など）等を使った英語のコミュニケーションの仕方を活動の中に取り入れた。この活動は、英語で話す時のリズムや英語を覚えることへの抵抗を少なくすることができ、楽しく英語に親しみ主体的・対話的な深い学びのある授業づくりに取り組んでいる。そうすることで、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成につながると考えた。

また、外国への興味・関心を高めるため、国際理解教育とからめた活動を通して、本年度の学習の終わりには、「もっと話したい」「もっと世界の人と対話したい」等、主体的に対話したいという児童が増えると考え、本テーマを設定した。

3 学年・領域

教科として全学年で実施する。

○低学年・・・（英語に触れる・慣れる）英語のリズムに慣れる。体を動かして、伝えたい気持ちを動作として取り入れる。

○中学年・・・（英語に慣れる・親しむ）本のアルファベットからフォニックスの導入とTPRを取り入れた場面設定により、英語の聞き取り、簡単な意思表示ができる。

○高学年・・・（英語に親しむ・使う）フォニックスに慣れ親しみ、簡単な英語を読み、書きとる、特定の場面における伝えあいができる（自己紹介・買い物・道案内等）。

4 各学年の実践

1 学年の取り組み

Greeting や Ending では、日直が英語で号令のあいさつをしたり、曜日や気持ち、天気などを尋ねたりし、児童らはそれに応えている。また、毎時 Hello Song を歌いながら、体をほぐして、ウォーミングアップをしている。

単語を覚えるときは、フラッシュカードだけでなく、児童が興味をひくような動画や実物を見たりしながら、その意味と音声をリンクさせている。

季節に応じた行事がある時には、様々な国の行事の様子を写真や動画を通して知り、日本と似ているところや違いを学んだ。



カルタ



カウボーイゲーム



ミッシングゲーム

2 学年の取り組み

タブレットを使用して colors や shapes の学習に楽しく取り組んだ。

「クリスマス」や「お正月」など、季節の行事の意味を知ったり、世界の行事の祝い方の違いを知ったりして、異文化に興味を持てた。

Worm up の時間の、英語の歌やダンスを通して、既習の内容を復習したり、新しい学習の単語に親しんだりした。



3 学年の取り組み

授業開始時は、リーダーを中心に、あいさつ・天気・曜日・日時の質問と答え方を確認している。単元はじめには、単元のゴールを確認し、見通しをもつことで学びの理解を深めることができた。また、英語で歌ったり、何度も発音することで、聞いて覚えることができた。発音を確認し、ゲームをすることで、コミュニケーションを取りながら基本的な英語表現に慣れ親しむことができた。



4 学年の取り組み

『This is my favorite place』の学習では、教室や施設の言い方に慣れ親しんだ。Warm up では、さまざまな方向を英語で表現するために「福笑い」を取り入れ、グループで楽しみながら表現を身に付けた。その後、各教室や施設を英語で言えるように練習し、タブレットを活用した校内の道案内に取り組むことができた。どの単元においても、毎時のめあてに沿ったインタビューやゲーム等を取り入れ段階的に指導することで、児童が意欲的に学習を進めることができた。



福笑いに挑戦する様子



グループで道案内の準備

5 学年の取り組み

greetingでは、1学期は前年度同様に、クラスリーダーが今日の天気・曜日・日時や学習ルールなどを確認した。2学期以降は、今日の天気・曜日・日時の確認をペアやグループで行い、多くの児童が質問や答える表現に慣れ親しむことができた。

「What would you like?」の単位では、「身近な人のためにランチメニューを考え、ていねいな言い方で注文をしよう。」のめあてのもと、児童は店員とお客さん役に分かれ、英会話のレッスンを行った。単元の最後にはパフォーマンステストでやり取りを行い、「How much?」と問われたら値段を計算したり、「I would like for ○○. It' good for her health.」などと答えたりすることができた。



6 学年の取り組み

授業開始時は、リーダーを中心に、あいさつ・天気・曜日・日時の質問と答え方を確認している。単元はじめには、単元のゴールを確認し、見通しをもつことで学びの理解を深めることができた。また、単語の発音を確認したりゲームをしたりすることで、英語表現に慣れ親しんでいる。さらに単元終わりには単元テストとは別に、パフォーマンス課題を設け、タブレットを活用して、将来の夢や紹介したい国、中学校に向けての楽しみなど英語で発表することができた。



グループ活動①



グループ活動②



③パフォーマンス課題の発表

Lesson Plan for 2nd Grader

2 年生 外国語活動授業計画

1. Topic : Touch your body parts!
2. Today' s Goal : 顔や体のパーツの言い方に慣れ親しむ。
3. Target Languages : Touch your ~ / head / shoulder / knee / toe / legs / arms / hands / fingers / hair/eyes / nose / ears / mouth

過程	活動内容 Activity	教師の支援		Remarks 留意点/教材
		HRT	ALT	
あいさつ (10分)	1. 《Greeting & Warm- up》 ①ALT が始めのあいさつをする。 ☆質問やルールの確認をする。 ②歌を歌う ♪Hello-hello dance Song	・あいさつを促す。 ・活動の進行を行う。 ・児童と一緒に歌う。	・歌やダンスのリードをする。	電子黒板

導入・展開 (30分)	2. 《Today's Aim》 めあて かおやからだのなまえをしよう！	・めあてを確認する。	・めあてを提示	電子黒板
	3. 《Practice & Activity》 ①体や顔のパーツの単語の練習（10分） ・カードを見せて発音と意味を確認する。 ②Singing and Dancing Time！ (2分+4分) 1 “Head shoulders knees and toe” を聴く。 2 “Head shoulders knees and toe” を踊る。 3 “Hokey-Pokey” を聴く。 4 “Hokey-Pokey” を踊る。 時間を見て Hokey-Pokey を飛ばすかどうか決める ③Action Battle Game（20分） 1. 学級を2チームに分ける。 2. 各チーム代表者を1人立たせる。 3. ALT の指示を聞いてその場所に触れる。 例：Touch your ears！ 4. 早かったチームに1ポイント！ 5. ポイントを多くゲットしたチームはステッカーゲット	・時々日本語で問いかけ、児童の理解度を確認する。 一緒に歌って踊る ・学級を2チームに分ける。 ・どちらが早かったかジャッジする。	・なるべくゆっくり、ジェスチャーを交えて話す。 ・自分のそれぞれの体に手を置きながら覚えていく 一緒に歌って踊る。 全体で念入りに練習する。 ・Touch your…の指示を出す。 ・ステッカーを渡す。	フラッシュカード 電子黒板 フラッシュカード ステッカー
まとめ (5分)	4. 《Wrap-up》 ①今日の感想 ②終わりのあいさつ	●「今日の学習で言えるようになった単語や表現」 ●「友達とのコミュニケーションで楽しかったこと」 ●「難しかったこと、もっと知りたいこと」など。		・数人に感想を言ってもらう。 ・良かったところなどを褒める。

5 成果と課題

低学年

- 毎時間の Greeting で、挨拶・気分・曜日・天気を繰り返し確認することで、少しずつ答え方が定着してきている。また、毎時間 Hello Song を歌うことにより、学習への意欲や楽しい雰囲気が高まっている。
- ゲームを通していろいろな英単語を覚えたり、発音することが出来た。
- ALT と一緒に学ぶことで、子ども達はネイティブな発音を学ぶことができた。
- 歌やダンス、チャンツなどを通じて、楽しく英語に慣れ親しむことができた。
- イベントに応じて、さまざまな国の文化に親しみ、異文化理解に興味を持つことができた。
- 英語を口に出すことに楽しみを覚えた児童が増えた。
- じゃんけんやあいさつなど、分かる英語を授業外でも使う児童がでてきた。
- 個人差があり、一人では答えられない子もいる。
- ゲームの勝敗にこだわる児童への声掛けに工夫が必要である。

中学年

- 授業のはじめに必ず、天気・曜日・日付や時間、気分などを英語で聞いたり答えたりすることで、簡単なフレーズが子ども達に身に付いていた。
- ICT を活用することで、実用的な英語を学ぶことができた。
- クラスルームティーチャーと ALT のデモンストレーションから既習事項や聞き取れる単語をつないで本時のめあてを導いていくことで、聞き取ろうとする態度が育った。
- ALT の段階的な授業計画により、児童の主体的に課題に向かう姿勢が身についてきた。
- ゲームの中でたのしみながら、日常で使える英語を学ぶことができた。
- 新しいフレーズが出てくると、少し前に習ったことを忘れてしまっている。
- 授業以外では、習ったことを使う機会が少ないから習得に個人差があり、対応が必要である。
- Unit が変わると、定着しづらい英語表現が出てくる。
- フォニックスなどの細やかな発音指導については継続した指導が必要である。

高学年

- 視聴覚教材が効果的に使用されていてわかりやすかった。
- 単元を通して、「I want to～」 「I can ～」などの表現をくり返し伝え合ったり、書いたりすることで、英語表現の理解を深めることができた。
- 単元のゴールとして、単元テストとは別に、パフォーマンス課題を設定することで、全単元で発表する機会を設けることができた。その際、【はっきりした声】【聞き手を意識した表情・アイコンタクト】【ジェスチャー】の3観点を示したことで、意識して発表する児童が増えた。
- ALT・JTEの先生方事前に打ち合わせを行い、計画的に授業を進めることができた。
- ペア・グループワークを取り入れることで、英語を話そうと頑張る子が増えてきた。
- ALTの先生方の指導計画に工夫があり、楽しく学習できた。また、学習の成果にもつながっている。
- 授業が話す・聞く内容中心のため、スピーキングやリスニングの力はついている
- 4本線を意識して、英語を書くことが苦手な児童がいるので、年間を通しての指導が必要である。
- フォニックスなどの細やかな発音指導については継続した指導が必要である。
- 英語を人前で話すことに消極的な児童もみられる。
- 単元テストでは単語を書いたり文を読んで答えたりする問題もあり、解けない部分がある。

6 外部評価

成 果	課 題
○ICT を使ってゲームや映像を取り入れて児童が楽しく活動している。 ○発音やアクセントが習得でき、自分がわかる単語でコミュニケーションを取ろうとする意欲がある。 ○例文を参考に自力で単語や文を楽しみながら書く姿が見られた。	●ALT が授業計画を立て、授業も中心となって進めてもらっている。 ●英語を話すことに抵抗がある児童への支援が必要。